



親鸞聖人750回大遠忌

親鸞聖人七百五十回大遠忌法要に向けて

大谷本廟親鸞聖人七百五十回大遠忌法要をお迎えするにあたり

あべけいいち
阿部慶一

大谷本廟は、宗祖親鸞聖人はじめ歴代宗主のご廟所であり、浄土真宗のみ教えを仰いでいる私たちの「心のふるさと」として今日まで大切に護持されてまいりました。先人から今世の我々に至るまで多くの方が「親鸞さまのおそばに……」との敬慕の念より、大切なご家族や有縁の方のご納骨をご縁に、毎日たくさんのご参拝があります。ご廟所はお念仏の声があふれて、年間百万人ほどのご参拝をいただいております。

また、例年の龍谷会をはじめ、各種恒例法要、年回法要や、仏前結婚式、初参式などをおして、お念仏のご縁を結んでいただいております。

大谷本廟では、特に広くご縁を結んでいただくために、春、秋彼岸会には明著堂前において毎年「花文字」を飾り、ご参拝の方々に好評を得ております。この花文字はお供えいただいた花を利用して、普段なじみの深い仏教語を中心に花文字にして、その内容の解説文を作り、多くの方々に配付し親しまれております。この花文字は季節の風物詩として参拝者の方々が、毎年心待ちにされておられます。

さらに、この大谷本廟の境内には、仏殿をはじめ諸堂がありますが、その建立は、第十二代准如上人、第十三代良如上人、第十四代寂如上人の時代になされました。特に大谷本廟の象徴でもあり、このたびの大遠忌法要が厳修されます明著堂が建てられる前に、寂如上人により、親鸞聖人の御廟に方一間半の宝形造りの廟堂が建てられました。一七一〇（宝永七）年には、親鸞聖人四百五十回大遠忌法要の修行にあたり、法要前年にご廟の拝堂として明著堂が建立されました。

この明著堂は、内部に柱がない東西五間、南北十間の特徴的な建物で、明著堂の額は寂如上人のご染筆によるものであります。

このたびの大谷本廟における親鸞聖人七百五十回大遠忌法要をお迎えするにあたり、「明著堂」をはじめ「仏殿」「総門」「太鼓堂」「鐘楼」「二天門」など、境内地全域にわたる建物、設備等の修復、整備がなされてきました。おかげさまで九月末日に工事が完了する予定になっております。これらのご修復が進むにつれ、大谷本廟も創建当時の姿が甦よみがえってまいりました。このことに思いをいたしますと、お堂を建ててご影像をご安置し、現在まで護持してこられた先人方のご苦勞が偲しのばれます。

いよいよ十月十二日から十六日に大谷本廟親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が修行されます。大谷本廟境内地の整備も進み、ご参拝いただく皆さまの受入態勢も着々と進んでおります。

すでに、ご法要への参拝を予定いただいている方も、たくさんおられることと存じますが、お誘いあわせのうえ、より多くの有縁の皆さま方にご参拝いただきますよう、ご案内申しあげます。

ご門主さまは「親鸞聖人七百五十回大遠忌についての消息」に、

このご勝縁に、聖人のご苦勞を偲しのび、お徳を讃たたえるとともに、浄土真宗のみ教えを深く受けとめ、混迷の時代を導く灯とも火しびとして、広く伝わるよう努めたいと思います。

とお示しいただいておりますように、大遠忌法要にご参拝される方がたを含め、広く有縁の皆さまへ、このご勝縁の意義をお伝えしていきたいと考えています。

また、平成二十三年にお迎えする、ご本山での「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」の円成えんじょうに向けて、この大谷本廟親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が「新たな始まり」の一步となり、スローガンに掲げられた「世の中 安穩あんのんなれ」の願いのもと、今後の宗門発展と正法宣揚しょうぼうせんようの一助となればと思います。

五十年に一度のご勝縁、皆さま方にはぜひともご家族おそろいでご参拝いただきますようお願い申し上げます。

(本廟局長)